

研究実施状況報告書

日本ヘリコバクター学会倫理審査委員会委員長 殿

研究代表者

所属 大分大学医学部消化器内科学講座

氏名 村上 和成



下記のとおり研究の実施状況を報告致します。

記

承認番号	18002
研究課題名	薬剤耐性ヘリコバクター・ピロリ菌の全国サーベイランス
研究期間	（西暦） 2018年 6 月 1 日 から 2021 年 7 月 31 日
今回報告研究期間	（西暦） 2018 年 6 月 1日 から 2020 年 3 月 31 日
進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 終了 ※いずれかに <input checked="" type="checkbox"/> を付けて下さい。
研究進捗状況 （自由記載）	<p>現時点において、全国12施設より505症例の登録が行われている。当初の目的数（1000株）までの達成とはなっていないが、定期的に参加施設に報告と呼びかけを行い、途切れることなく協力を得ることが出来ている。</p> <p>症例登録票の提出は参加いただく臨床施設の負担軽減を考え、菌株登録期間終了後に一括でも可ということにしており、患者背景、使用PPIを考慮した分析は現時点では行っていない。</p> <p>今回、厚生労働科学研究に公募し採択（2020年1月）された「ヘリコバクター・ピロリの薬剤耐性モニタリングと除菌戦略の立案（19HA 0701）」（研究代表者；杉山 敏郎）の研究内容に、全国を網羅した継続的な薬剤耐性モニタリングシステムの確立を目的とするうえで、本学会主導研究の全国耐性菌サーベイランスを推進しており、本研究の研究デザインに沿う形にて共同実施することになった。</p>
研究成果 （論文、その他）	<p>現時点で全国より登録・解析された<i>H. pylori</i>菌、487株の薬剤耐性菌の動向としては</p> <p>① CAM耐性率に関しては36.1%とここ近年と比べても大きな変化は見受けられず、ほぼプラトーに達しているのではないかと考えられる。</p> <p>② MNZ耐性率としては低いものの緩やかながら上昇している傾向があり、その信憑性について、同一受託機関とりまとめにより得られる今回の結果は特に重要視していた。結果、現時点にて5.1%とやはり2014年以前よりは上昇していることがわかった。</p> <p>AMPC非感性株に関しては、過去と同様な傾向にあり、一定の耐性（非感性）率が維持されている傾向がうかがえる。また、STFXのMIC₅₀は0.06 μg/mLと低いもののMIC₉₀は0.25 μg/mLと差があり、また1 μg/mL以上の株も16株存在していることからSTFX耐性化が進んでいることが推測された。</p>